

## 指導者等養成研修事業

# 大阿蘇青少年ボランティア入門塾

[主催] 国立阿蘇青少年交流の家

[後援] 熊本県教育委員会

[期日] 令和元年6月1日(土)～2日(日) 1泊2日

[活動場所] 国立阿蘇青少年交流の家

[参加者] 45名(大学生32名・専門学校生5名・高校生7名・一般1名)

[講師] 日本文理大学人間力育成センター長 高見大介 氏  
WakuWaku OFFICE あそBe隊代表 薄井良文 氏  
国立阿蘇青少年交流の家次長 北見靖直

[担当職員] 尾家義隆(企画指導専門職) 有木園和志(企画指導専門職)  
内村千春(事業推進係主任) 山川昇椰(事業推進室事業補佐員)  
猪島 幸(事業支援室専門職員)

[運営ボランティア] 田中聖美(九州ルーテル学院大学) 高宮かな美(熊本大学)  
砂坂智秋(熊本県立大学)

## 1 趣旨

ボランティア養成研修を通して、青少年教育施設におけるボランティア活動の基礎を培い、ボランティアとしての態度や能力を育成する。

## 2 目標

- ボランティア養成研修を通して、青少年教育施設におけるボランティア活動の基礎を培い、ボランティアとしての態度や能力を育成する。
- 先輩ボランティアや施設職員との交流を通じて、青少年教育施設におけるボランティア活動の魅力に触れ、法人ボランティアへの登録を促す。

## 3 事業展開

### 研修プログラム

	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00
6月1日(土)				受付	開会式	講義 「青少年教育の理解」	昼食	演習 「交流の家を知ろう(オリエンテーリング)」	休憩	実習 「野外調理(カレーライス)」	入浴	講義 「ボランティア活動の魅力」	就寝準備			就寝

	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00
6月2日(日)	起床	朝の朝食	退所点検	演習 「安全管理について学ぼう」		昼食	講義 「青少年教育施設のボランティア活動の実際」	閉会式		解散						



青少年教育の理解



安全管理について学ぼう



オリエンテーリングの様子



野外調理の様子



ボランティアの魅力



運営ボランティアによる体験談

## 4 成果と課題

### (1) 成果

- ① 今回、45名の参加者全員が法人ボランティアに登録した。プログラムの構成を工夫したことで、参加者のボランティアに対するハードルが低くなったことが要因であると考えられる。
- ② 実際のボランティア活動で起こりうる子供たちへの対応と応急処置のロールプレイングや野外活動・野外調理などの実習を多く取り入れたことで、参加者中心のプログラムができた。
- ③ 熊本県や大分県の大学を直接訪問し広報したり、広報先の学校を精選したりしたことで、目標人数の40名を超える参加者を確保することができた。また、当施設の教育事業や法人ボランティアの仕組みについて各大学へ周知することができた。
- ④ 各講義・演習前にレクリエーションを取り入れたことで、アイスブレイキングや参加者同士の交流のきっかけづくりをすることができた。

### (2) 課題

- ① 「天草までの送迎もしてほしい。」という参加者アンケートの記述があった。本事業及び今後の教育事業において、参加者や法人ボランティアが参加しやすくするための送迎の充実が必要である。
- ② 今年度の『九州・沖縄ブロックボランティア交流会』へ向けて、今後様々な事業で自主企画・運営等を行うことができるボランティアの育成を強化する必要がある。
- ③ 今回、法人ボランティアに登録した参加者が、ボランティア活動への意欲を維持することができるように、ボランティア募集情報や各事業でのボランティアの感想等を発信していく必要がある。